

kirari yokkaichijin Vol.119

きらり四日市人

東北福祉大学硬式野球部 3年生

後藤凌寿さん



「自分が育った場所は四日市商業高校のグラウンド。後輩や地元の人に活躍する姿を見せたい」と語る後藤さん。

地元四日市から、数多くのプロ野球選手を輩出する強豪大学に進学し、投手として活躍する中で、大学日本代表候補に選抜され、プロ野球選手を目指す現在までの道のりを伺いました。

野球は高校までのつもりが

小学3年生から野球を始め、元々は高校を卒業したら就職して草野球でもしようと考えていました。高校3年生の夏に東北福祉大学から声を掛けてもらい、高いレベルで自分の力が通じるのか試してみたいと考え、大学野球に挑戦することを決めました。



高校3年生の夏の大会での投球



大学のチームメイトと共に (中央)



母校のグラウンドで投球を披露する後藤さん

強豪チームの中で成長

強豪チームでプレーをすることは人生で初めてで、高いレベルに身を置くことで野球に取り組む姿勢や意識が大きく変わりました。選手として体を大きく、強くするための知識を得られて、心身ともに成長できたと思います。

自分の選手(投手)としての特徴は、コントロールに自信があり、いつでも冷静に淡々と投げられるところです。そこを評価してもらい大学1年生の時から試合に出場させてもらいました。

けがとの闘いと飛躍の年

2年生から3年生の春までは、けがが重なった影響で投げられない期間が長く、チームの期待に応えられず苦しい時間が続きました。

けがから復帰した3年生の秋のリーグ戦では、これまで投げられなかった分を取り戻すつもりで臨み、最優秀投手に選ばれるなど、大学に入って一番の手応えを感じましたね。

また、昨年12月には大学日本代表候補に選抜され、初めて代表合宿に参加しました。まさか自分が選ばれるとは思いませんでしたが、各大学の主力投手などがそろって、いろいろな選手から話も聞けて、自分を高める良い経験になりました。

大学日本一、そしてプロの舞台へ

自分が大学に入学してからチームは全国の舞台で勝てていないので、今年は東北福祉大学のエースとして、チームメイトと一緒に日本一になりたいです。そして、将来はプロ野球の世界で活躍し、自分を見て頑張ろうと思ってもらえるような選手になっていきたいと思っています。

2月放送のCTY-FM「よっかいち わいわい人探訪」でも紹介します。(放送時間は裏表紙へ)